

地域を愛し、地域に生きる心を育む二つの体験

千年小の4年生は、『五庄屋の精神に学ぶ会』のみなさんにご尽力いただき、五庄屋と地域の人々が開削した南新川で舟下りを体験します。



今年は、10月29日に行われました。
20分間ほどの舟下り体験でしたが、実際に水がしっかり流れていることを確かめることによって、五庄屋と地域の人々が成し遂げた事業が今も地域に貢献していることを実感しました。

また、5年生は学校実習田で稲刈りを体験しました。清流会やPTA役員のみなさんにご指導いただきながら、千歯扱き（せんばこき）や足踏脱穀機（あしぶみだっこくき）を使った脱穀も体験しました。



今年は、10月30日に行われました。
苗作りや田植えを体験し、高木前市長さんに千年の米作りに関する歴史を学び、豊かに実った米の収穫を喜ぶことができました。12月に予定されているもちつきが、今から楽しみです。

二つの体験に共通しているのは、自分たちが生活をしている地域（校区）には、どういう先人がいて、どのように地域の暮らしを発展させてきたのかを学ぶことができるということです。子どもと地域をつなぐ大切な学びの機会として、今後も地域のみなさんと連携して、二つの体験を位置付けた総合的な学習の時間の充実を図っていきたいと思います。

研究発表会・・・子どもの学びが評価されました

10月25日に、うきは市小学校教育研究会指定・委嘱の研究発表会を開催したところ、市内はもとより県内各地から200名を超す教育関係者が参加し、本校が提案した研究構想や授業を基に研修を深めました。

本校が主張したのは、生成AIの急速な発展が予測される今後の社会では、共感したり協調したりする能力を身に付けることが大事になるということ。そのためには、お互いのよさを認めたり、改善を促したりする相互評価を重視した授業づくりが大切であるということです。



そういった本校の主張は、当日公開した授業における子どもの姿に反映されており、それに対して以下のような評価を数多くいただきました。

- ☆ あったか評価により、子どもが考えを再構成する姿を見ることができてよかったです。子どもが育ってますね！（広川町の先生）
- ☆ 自分の考えをつくるのが難しい子どもも、あったか評価を繰り返していくことで、どんなことを書いたらよいのか、どんな視点でアドバイスすればよいのかを学べると思いました。（市内の先生）
- ☆ あったか評価により自分の考えを見直したり、友達の考えのよさに気付いたりするとともに、よりよい人間関係の構築につながると感じました。あったか評価をもらって嬉しそうな表情をしている子がたくさんいました。ぜひ、本校の授業づくりにも生かしたいと思いました。（昨年度まで在籍されていた石松先生）

各学年とも今週から清流祭に向けての本格的な練習が始まります。どんな発表をするか、楽しみにしててください。また、当日は教育講演会もあります。魅力的な内容ですから、是非、ご参加ください。